



RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY

酪農学園大学

出会う

No. 79 2019. 3. 20

キリスト教委員会



お手をするしょうゆ (撮影: 森 映子)

『人間の霊は上に昇り、動物の霊は下に降ると誰が言えよう。』(コヘレトの言葉3章21節)

実習犬「しょうゆ」を譲り受けて

獣医学類6年 三宅 史

「しろとが宗教について考えた」

獣医学類 生体機能学分野 獣医薬理学ユニット 寺岡 宏樹

酪農学園大学を卒業して

農食環境学群 食と健康学類 応用生化学研究室 長谷川靖洋

『希望』を生み出して下さい

獣医保健看護学類 宮庄 拓

実習犬「しょうゆ」を譲り受けて

獣医学類6年 三宅 史



私は昨年、実習犬
だった「しょうゆ」
という名前の女の子

のビーグル犬譲渡を大学にお願いし、公式にははじめてとなる実習犬譲渡を受けました（このことは行政刊物やいくつかの地方紙で報道されました）。実習犬というのは、学生が注射や検査、麻酔などの練習をするときに役立ってくれる犬のことです。譲り受けたときしょうゆは9歳でしたが、今は10歳になっています。

しょうゆと出会ったのは、4年生の後期からゼミ活動がはじまったときです。伴侶動物のゼミ生はひとり1匹実習犬のお世話をします。私はそのときしょうゆがとてもかわいいと思って担当になりました。実は他のふたりは「メルセデス」という犬がかわいいと感じたらしく、希望が競合していました。でも私は、はじめからしょうゆが一番かわいいと思ったのですんまり決まりました。4年生後期から5年生前

期にかけてしょうゆのお世話をして、彼女がとても賢いことに気づきました。外に出ることを怖がる犬もいる中で、しょうゆは散歩がとても好きでした。いつかしょうゆを譲り受けたいとは思っていましたが、後輩にお世話を引き継いだ後、そのタイミングがやってきました。

前例のないことで、いろいろな先生と話し合いをするなど、簡単ではありませんでしたが、結果的にしょうゆを



引き取ることができました。実習犬しょうゆは今私の実家で家庭犬となり、ゆったりと暮らしています。私は週末には実家に戻りますが、しょうゆはとても喜んでくれます。トイレやお風呂のときまでついてきて、外で私が出てくるのを待っているほどです。散歩が大好きなしょうゆは、毎日2回父や母と1回1時間ほどの散歩を楽しみます。この散歩のおかげで、少し太り気味だったしょうゆも私の父も、体重が減って筋肉が増えました。母も体力がついて立ち仕事が辛くなくなったといいます。そして家の中がとても明るくなったと思います。もともと家が暗かったというわけではないのですが、私と姉が成長して外に出た上、飼っていた猫も1年前に亡くなったので、両親ふたりだけの静かな生活になっていました。そこに賢くかわいいしょうゆの存在が明かりを点してくれました。みんな「しょうゆが来てくれて本当によかった」と言っています。

実習犬はなかなかつかない上しつけが大変だという説もありますが、しょうゆは違いました。教えたことはすぐ覚えてくれます。でもはじめは、ほめられたり怒られたりすることの意



味がよくわからなかったようです。家庭犬ではなかったために、ほめられたり怒られたりすることがあまりなかったからだと思います。でも今はほめられるのが大好きになりました。ごはんを食べるとほめてあげるので、ごはんを食べる度にアピールしてきます。鹿肉のスナックも大好物で、大喜びして食べてくれます。

もう老犬といってよい歳ではありますが、しょうゆと私の家族両方がなるべく長く幸せな気持ちで過ごせるよう願っています。4月から私は伴侶動物の獣医師となりますが、人にも動物にも良い方法を選べるようになれたらと思います。

「しろうとが宗教について考えた」



獣医学類 生体機能学分野 獣医薬理学ユニット 寺岡 宏樹

はじめに

昨年4月から、赴任何年目か以来のキリスト教委員を拝命している（その縁でこの記事を書かせていただいております）。最初にお断りしておくが、自分はキリスト教信者ではない。もっとも、結婚式は札幌市内のカトリック教会で挙げた。義理の母が信者だったから。ついでに、披露宴の前に札幌パークホテル隣接のチャペルでも挙げた。もっと言えば、子供のころ、友達の父親の葬式で教会に行った。これが本学園以外における私のキリスト教体験のすべてである。それなのに、なぜか昔からキリスト教信者と勘違いされることがあった。先輩のキリスト教委員で敬虔なキリスト教信者の先生がおられるが、とある懇親会の席でその筋のお誘いを受けた。自分をキリスト教信者と信じ切っておられたのだ。思いがけないお誘いにたいそう驚きながらも、あまり話したことがない後輩から家で聖書を読んでいるようなイメージといわれた中学時代のことが頭に浮かんだ。

以下、この場を借りて、教科書と研究に關する資料以外はほとんど読んだためしのない、浅学非才の理系の徒が漠然といただいている、日本人にとっての宗教観（単なる思い込み）を綴らせていただいた。

日本人にとっての宗教とは

「あなたの宗教は？」と問われれば、自分のごく平均的な仏教徒であると答えるしかない。しかも宗祖親鸞聖人の教で、ただ念仏を唱えれば極楽浄土にいけるといってありがたい浄土真宗である。決して熱心とはいえない自分でも、親族がなくなるとお寺や葬儀場でお坊さんにお経をあげていただき、焼香する。お盆が来ると先祖の墓や納骨堂でお参りする。しかし、今年の正月にも神社へ初詣に行った。神社はいうまでもなく、神道の神殿である。万世一系とされる天皇は天照大御神の子孫であると古事記にもある。天照大御神は古代黎明期から八百万神（やおよろずのかみ）

の長たるもので、れっきとした神道の神である。自分は天皇をはじめ皇族に好印象をいただいている。しかも、多くの日本人と同様、キリスト教信者でもないのにクリスマスを祝ったりもする。もちろん、最近急激に一般化したハロウィン同様、イベントのきっかけにすぎない。

考えてみればかなり不思議であるが、大きな神社境内で小さなお寺をよく見かける。現在、神社本庁の本宗で古代からの歴史を誇る（伊勢）神宮、天皇家祖先ともゆかりの深い宇佐神宮、織田信長が桶狭間の戦いの前にお参りした熱田神宮。これらのような歴史ある大きな神社には（おそらく）すべてお寺を併設している。これは神仏習合といわれていて古くは8世紀からのことらしい。日本へ仏教が伝来したのは天皇が国の実権を握っていた6世紀のころと教科書にもある。ながらく一万円札の図柄にもなっていた聖徳太子（厩戸皇子）は熱心な仏教推進派で、法隆寺も建立したとされている。しかし、即位の礼をはじめ皇室行事は神道に基づいて取り進められるわけであるし、天皇や皇族が仏教を積極的に導入しようとしたのは不思議ではないか。明治から現在の憲法制定まで、国家神道として天皇を最高祭祀者として再神格化したのが、江戸時代までは天皇も京都に泉涌寺という菩提寺をもつ仏教徒でもあった。奈良時代に聖武天皇が奈良の大仏を建立したが、これほどの大事業に駆り立てた原因は、皇位継承権を持つ男子が生まれなかったからとの説がある。もしそうであれば、天照大御神の子孫と国公認の歴史書にも書かれている天皇たるものが八百万神ではなく、わが国の歴史上でもそうは例のない国家的大事業を行ってまで、インド発祥の神（お釈迦様）に頼ったことになる。

日本人はなぜこのように宗教に関して、節操がないのだろうか？そもそも、このような「宗教のちゃんぽん」状態にほとんどの方が気づいてもいないのかもしれない。周りの者、皆と同じごく普通のこと。つまり昔からそのような状況なのである。「自分達の信じる神を簡単に取り換える世界でも稀な民族」と外

国人に軽蔑されているのではないかと自分はひそかに心配している。これについて、総じて多くの日本人は宗教に関心が低いから、ほかの宗教の行事を都合よく取り入れていることである程度説明できる。外国人がどう思うかは別にして（そういう視点すらない）、ただのしゃれで、宗教的意味合いなどないということだ。神道は聖書のような経典もなく、特に戒律もはっきりと定められていない。仏教は当時の超文明大国である中国を介して伝来したご利益のありそうな「最新の神」であり、聖武天皇がその力に頼って男子の誕生を祈願したとすれば理解できる。お坊さんが当時最高の識者であったことを考えれば、宗教というよりも最新の科学技術に近いものだったのかもしれない。当時に比べて飛躍的に科学が進歩した現在でも、風水や占いを信じる人がたくさんいるのではないか。やはり日本は一神教とは絶対的に異なる八百万神の国なのだろう。

日本人にとってのキリスト教

豊臣秀吉による「バテレン追放令」以来、キリスト教は明治になるまで禁教として弾圧されてきた。明治以降は仏教とならび、神道の下にある一宗教として扱われた。つまり国レベルでキリスト教を導入、普及した歴史はない。（いつも学生に著者がわからないので引用文献にならないと叱っている）ウィキペディアによれば、日本のキリスト教徒（プロテスタント、日本聖公会、東方正教会、カトリックの全て）は日本人全体の1%前後にすぎない。だから逆に、キリスト教は自然に信者になるものというよりも、自ら選んだ側面が強いはずである。しかし、非キリスト教信者にとってのキリスト教とは何なのか？ 自分は宗教に興味があるとはお世辞にも言えないが、大学礼拝で聞く宗教主任をはじめるいろいろな講師の先生方のお話を聞くのはそう嫌いではない（その割にはあまり参加していないが）。何しろ2000年以上前にできた遠い異国の教えをもとにしているわけなので、当然、現在の日本人にそぐわない点もあるのは無理もない。しかし、命をかけて伝えようとした言葉にはどこか感じるものがある。全面的ではないにせよ、少なくとも部分的には共感できる。聖書の一節はついつい忘れていた戒めを思い出させてくれる。

宗教は望むと望まないにかかわらず個人や民族の精神基盤に大きな影響を与えてきたとすれば、キリスト教を学ぶことは実際の側面もあるように思う。少なくともキリスト教

の知識は欧米を中心とした外国人を本当の意味で理解するためには避けて通れないと思う。幸か不幸か、日本社会は短期間に急激に欧米化した。第二次世界大戦後、家長制度が新憲法で否定され、民主国家に急変していったが、そのせいか、家庭教育などは相当壊れてしまったように感じている。同じ時代に同じ社会で生活していても、現在の年長者は家長制度の影響が色濃く、若者は民主主義に従って物事を判断する（しかもたぶん欧米のそれとは異なる日本的民主主義）。キリスト教を基盤とする欧米の考え方はどの程度浸透したのか？ 他方、日本人の精神はあくまで「和のこころ」に基づいているという人もいる。聖徳太子が作ったとされる「十七条憲法」の第一は「和」を大事にするということである（和を以て貴しと為す）。あるいは、当時すでに社会的コンセンサスであった日本人の心情風景を太子がただ明文化しただけかもしれない。「和を乱す」というセリフを聞けば、「和のこころ」は今も日本人に根付いている。日本人は会議などでもあまり自分の意見を言わない。欧米人どころかアジア人の中でも珍しいように思う。「和のこころ」は討論によって物事を決めていく欧米文化とどのように折り合いをつけられるのだろうか？ 日本人の精神も捻じれの状態にある。欧米と日本の考え方の違いを充分理解した上で、単なる欧米の真似を超えることが必要なのかもしれない。

おわりに

ある程度の選択権があるとはいえ、授業は基本的に教員のお仕着せかもしれない。しかし、その授業が開講されている意味は確かにある。そのことをこれまで自分自身が体験してきた。ただ単位をとることが目的だった授業を含めてである。今後、卒業生諸君もきっとそう思う瞬間を迎えることだろう。酪農学園で接したキリスト教もきっとその一つ。

大学時代の思い出は永遠である。笑って終われる人生を歩んでいただきたい。



泉涌寺境内（月輪）には歴代天皇や皇族の陵墓が営まれている。

酪農学園大学を卒業して



農食環境学群 食と健康学類 応用生化学研究室 長谷川靖洋

酪農学園大学ならびに大学院を卒業される皆さん、今日は誠におめでとうございます。また、皆さんを暖かく支えてこられたご家族や保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

皆さんが酪農学園大学に入学した4年前あるいは6年前を振り返ってみてください。皆さんは入学式にはどのような心情で臨んでいましたか。多くの方は「期待と不安」が入り混じった感情を持ち、これからの授業やサークル、友人との関係などのことで頭がいっぱいだったのではないのでしょうか。では、今日、卒業式にはどのような心情で式に臨んでいますか。皆さんの胸のうちは学生生活が終わる「安堵感」や「喜び」、「寂しさ」、4月から迎える新しい生活に対する「期待」や「不安」に満ちていると思います。入学当時を持っていた「不安」は自然とアルバイトや、サークル活動、勉強、研究といった楽しかったこと、苦しかったことな

ど、様々な経験をして大学生生活を過ごす中で消えていったのではないのでしょうか。では、4月から迎える新生活への「不安」はどのように解消するのでしょうか。

私は2008年3月に学生生活を終え、2008年4月より一般企業で新社会人となり、2017年4月より現職として、母校である酪農学園大学に着任しました。社会人1年目は学生と社会人との隔たりに悩まされ、心労を重ねていた経験があります。皆さんもこのような境遇に悩まされることがあるかもしれません。そのような時は酪農学園大学で過ごした日々を思い出してみてください。酪農学園大学は北海道内の他私立大学と比較して北海道外から進学してくる学生が大変多く、その人柄や卒業後に活躍している分野は多岐に渡ります。写真は私の所属している研究室所属4年生の日常の1例ですが、個性も出身地も内定先もバラバラです。しかしながら、毎日、和気あいあいと研



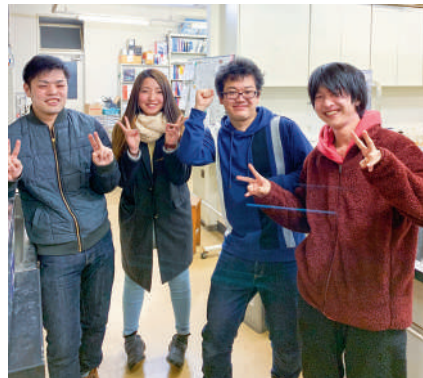
大学

研究室での生活を過ごしています。著名な生物学者であるダーウィンはこのような言葉を残しています。「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き残るのでもない。唯一生き残るのは環境に合わせて変化するものである」。この言葉は様々な境遇で育ち、酪農学園大学で研鑽を重ねた皆さんの強みになると強く信じています。また、酪農学園大学の同窓会員は全国に15万人以上を数えます。日本国民の約千人に一人は酪農学園大学の同窓生です。同窓生が身近にいることも忘れないでください。

繰り返しになりますが、皆さんはこれからいろいろな進路に進んでいきます。会社生活、研究生生活、自営業の手伝い等々での生活が待っています。その中で難しい問題に直面することは必ずあります。疑問に思うこと、おかしいと思うこと、判断に迷うことなど

多々あります。その時は冷静になって、酪農学園大学で過ごした日々を思い出してください。必ず、解決の糸口が見つかると思います。また、時間を見つけては大学に遊びに来てください。全教職員は皆さんをあたたかく迎えると思います。

最後になりますが、改めて、ご卒業、誠におめでとうございます。これからの皆さんのご活躍を心から祈念しております。



ゼミ

『希望』を生み出して下さい



獣医保健看護学類 宮庄 拓

卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。酪農学園大学で学んだこと、経験したことは皆さんの宝です。それを誇りとして下さい。皆さんの能力は神様から与えられたものです。神様に感謝しつつ、それぞれの世界でご活躍されることを祈ります。

ローマの信徒への手紙5：3～4に『苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。』とあります。この言葉はC1号館の壁に英語で書かれている言葉です。この言葉は、一見、厳しい言葉のように思えます。しかし、困難の先には必ず『希望』が生まれるということです。皆さんは神様に愛されています。どんな時も神様が支えてくれます。だから、どんな苦しみにも耐

え忍ぶことができ、『希望』を生み出すことができるのです。

北海道の大地では深い雪の下からでも、寒さに耐えた草花は、春になれば芽を出します。この北海道の大地で学んだ皆さんも、苦難、忍耐、練達の先に、約束されている素晴らしい『希望』が実るはずで。4年間または6年間の大学生活の中で、勉強や人間関係などで忍耐を強いられたことが幾度もあったかも知れません。これから社会に出ても、幾度も忍耐を強いられるかも知れません。しかし、皆さんの歩みの中で、きっと豊かに花開き、実を結ぶものになることを信じています。酪農学園大学の卒業生なら、必ず『希望』を生み出すことが出来るはずで。

皆さんのこれからの歩みの上に、常に神様の豊かな見守りがありますように。

あ と が き

表紙と本文の中に登場する「元実習犬しょうゆ」は、本学の実習犬だったしょうゆという名前のビーグル犬で、初めて公式に譲渡されたということで報道されました。Yahooニュースで紹介された後には、検索すると何万件も

ヒットするようになり反応のほとんどが肯定的です。新しい社会倫理が現れつつあります。研究には実験が、教育には実習が必要ですが、役割を終えて引退した実習犬には温かい家庭が待っているのが理想です。(Y. T.)

酪農学園大学キリスト教委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011-386-1111 (代表)



酪農学園大学は、2014年度(公財)日本高等教育評価機構による大学機能別認証評価において大学評価基準に適合していると認定されました。



(酪農学園大学公式サイト)